

平成 2 2 年度

事 業 報 告 書
収 支 決 算 書

財団法人 大阪 2 1 世紀協会

目 次

平成 2 2 年度事業報告 1

 I 概要 1

 II 各事業の実施概要 3

平成 2 2 年度収支決算 1 6

平成22年度事業報告

I. 概 要

大阪21世紀協会は、設立以来、産・官・学・民のオール大阪のプラットフォームとして大阪・関西の「文化力向上」を目指してきたが、平成22年度は、コンパクトになった組織で、いかに情報発信力のある事業を展開できるかが試される一年となった。

そうした状況下で、全職員が危機感を持って取り組み、①文化力の向上と人材育成、②関西・大阪のイメージ向上、③水都を中心とするまち育ての3本柱に事業を絞り込み、人・モノ・資金、情報を集中し、効率的な運営を遂行した。さらに、これまで当協会が培ってきたネットワークを活用し、コラボレーションパートナーや協会外の事業者、自治体と新たな協力関係を結んで事業の拡大や効果的な発信に努め、大きな成果をあげることができた。

例えば、この1月にハーバード大学のエズラ・ヴォーゲル名誉教授、韓国初代文化大臣の李 御寧氏を招き、1,200人が参加した「関西・大阪文化力会議」では、大阪国際フォーラム、大阪国際会議場との共催によりインパクトのある「中之島宣言」を採択し、アピールすることができた。さらに、大阪で活躍するアーティストを紹介する「アート・アSEMBリー」事業ではクラブ関西の協力を得て、効果的なプレゼンテーションを実施することができた。

関西・大阪のイメージ向上事業については、ホームページをWEB放送局として活用し、夏祭り特集や、「鍋」を切り口に大阪の食文化の発信に注力した。さらに、「淀川水系文化圏」をテーマに、ケーブルテレビの(株)ケイ・キャットとのコラボレーションで映像コンテンツを共同制作し、テレビ放送と当協会のWEB配信というシナジー効果を発揮することができた。

まち育ての事業では、「平成 OSAKA 天の川伝説 2010」運営委員会と協働し、先端技術 LED を光源とする「いのり星」5 万個を大川に流し、七夕という伝統行事に新たな水都の景観が実現した。あわせて、大阪城西の丸庭園に共用舞台を設営し、大阪城に舞台芸術の発表の場づくりと、観光集客の場づくりとしての社会実験を成功裡に開催することができた。

以下、役員会等の開催状況並びに①文化力の向上と人材育成、②関西・大阪のイメージ向上、③水都を中心とするまち育ての 3 本柱について、具体的な事業を報告する。

以 上

Ⅱ. 各事業の実施状況

1. 役員会等の開催

(1) 理事会

回(年月日)	議 題
第 8 1 回 (H22. 5. 28)	1. 評議員の選任について
第 8 2 回 (H22. 6. 30)	1. 平成 2 1 年度事業報告について 2. 平成 2 1 年度収支決算について 3. 「財団法人大阪二十一世紀協会役員報酬に関する規程」の改正について
第 8 3 回 (H23. 3. 23)	1. 公益法人改革への対応について 2. 最初の評議員の選任方法について 3. 協会設立 3 0 周年記念事業の実施について 4. 財務安定積立資産規程の廃止と文化振興事業積立資産規程、企画調整事業積立資産規程、協会設立 3 0 周年事業積立資産規程の新設について 5. 平成 2 2 年度補正予算について 6. 平成 2 3 年度事業計画について 7. 平成 2 3 年度収支予算について 8. 役員報酬に関する規程の一部改正について

(2)評議員会

回(年月日)	議 題
第 6 5 回 (H22. 6. 17)	1. 理事及び監事の選任について 2. 平成 2 1 年度事業報告について 3. 平成 2 1 年度収支決算について
第 6 6 回 (H23. 3. 15)	1. 理事の選任について 2. 公益法人改革への対応について 3. 最初の評議員の選任方法について 4. 協会設立 3 0 周年記念事業の実施について 5. 平成 2 2 年度補正予算について 6. 平成 2 3 年度事業計画について 7. 平成 2 3 年度収支予算について

2. 文化力向上

(1) 社学連携

① 21世紀の懐徳堂プロジェクト

大阪大学 21 世紀懐徳堂、大阪市、(株)140Bとの連携事業。これは「懐徳堂」精神を 21 世紀に引き継ぎ、市民が自らの手で学びの場を立ち上げ、中之島を新たな“知の蔵屋敷”にしていこうという運動で、当協会は事務局を担当し、活動の企画立案や各団体間の連携について調整業務を行なった。

《ナカノシマ大学》

「月刊島民」への協力事業として、協会事業の告知・PRを行った。結果、当協会のイベントに都市文化に関心の高い新たな参加者を呼込むことができた。

《アート・アSEMBリー》

関西において芸術・文化面で活躍するアーティストを、大阪の経済界、有識者に対して紹介する活動。大阪文化祭賞（後述）受賞者を対象に、公演会と身近な交流を深める場づくりを行った。

【第1回】◇実施日 平成22年11月29日（月）

◇場 所 社団法人クラブ関西

◇出 演 ザ・タロー・シンガーズ・・・アカペラ混声合唱団
片岡リサ・・・ 箏奏者

【第2回】◇実施日 平成23年1月18日（火）

◇場 所 関西・大阪文化力会議（大阪国際会議場）

◇出 演 関西歌劇団・・・オペラ

関西フィルハーモニー管弦楽団・・・ 弦楽四重奏

評価	◆参加者 第1回： 50名 第2回： 400名
	◆第1回はサロン形式で開催し、以下のような声が寄せられた。
	・間近で音楽家の息吹に触れ感動
	・アーティストにとって大きな励み、このような機会の提供は大変有意義
	◆「大阪大学 21 世紀懐徳堂活動報告書 2010」誌上で、アート・アSEMBリーの模様を写真入りで紹介、評価された。

《インテリジェントアレー・専門セミナー》

関西社会人大学院連合セミナーに、当協会が企画・運営する「都市文化論」講座を展開した。

◇タイトル 都市文化論
～文化によるまちおこし活動の理論と実践～

◇実施日 別表参照 （開催時間は各日 19:00～21:00）

◇場 所 大阪駅前第2ビル4階「キャンパスポート大阪」

◇参加料 6,000円/回

◇講師・テーマ

1	同志社大学経済学部教授 河島 伸子氏 ～欧米諸国の文化政策から学べること～	1/13 (木)
2	(公・財) サントリー文化財団主任研究員 小島 多恵子氏 ～文化が地域を創るーサントリー地域文化賞を中心にー～	1/27 (木)
3	大阪商業大学総合経営学部教授 初谷 勇氏 ～都市文化政策と地域ブランディングー当事者の役割～	2/10 (木)
4	ランドスケープデザイナー 山崎 亮氏 ～市民による公共空間のマネジメントについて～	2/24 (木)
5	りそな総研新規事業戦略部プロジェクト・フェロー 藤原 明氏 ～「経済」と「文化」の戦略的協働による地域活性化～	3/10 (木)
6	(財)大阪21世紀協会理事長 堀井 良殷 ～大阪の町人文化に学ぶ : 懐徳堂と心学の精神～	3/24 (木)

評価

◆参加総数： 90名（内4名が全6回参加）

◆受講者アンケート結果（全体結果より抜粋）

・講座の内容： とても満足＋満足 全体の89%

・仕事等での活用： とても役立っている＋役立っている
同 78%

◆まちづくりに関心の高い参加者に、欧米の文化政策との違いや全国各地での取組み事例、課題克服のプロセス等を、具体的に紹介。質疑応答もたいへん活発であった。

②インターナショナル・ワークショップ・フェスティバル「250DOORS」

大阪で活躍する魅力的な人材を講師に迎え、ワンコイン(500円)で誰でも気軽に参加できる日本最大のワークショップの見本市イベント。関西広域機構、LLPアートサポートと実行委員会を組織し、当協会が企画・広報・コーディネーター育成を担当した。

◇期日 前期／平成22年7月31日～8月9日

後期／ 同 8月16日～8月24日

◇場所 芝川ビル、大阪市中央公会堂、大阪市立芸術創造館等 6会場

◇内容 ・講師、ワークショップコーディネーターの発掘、育成
・開講講座 248講座

評価	◆参加者 受講／3,235名 コーディネーター／131名
	・女性参加者が多く、幅広い年代層からの参加が見られた。
	男：女／ 26%:74%
	年代／20代⇒22% 30代⇒26% 40代⇒26% 50～60代⇒14%
	◆参加者アンケートの結果より
・ワークショップの感想： 満足 86% 普通 12%	
・コメント例：「講談の初体験、90分では短かすぎたが、さらに興味がわいた。」(講談講座)	
・「生で見る切りあい、とても迫力がありました。子供たちも『お兄ちゃんかっこよかった』と感動していました。わが家でブームになりそうです。」(チャンバラ講座)	

(2) 関西・大阪文化力会議 2011

国、地方自治体の厳しい財政状況の下、関西、大阪の地域文化をどう守っていくかを広く市民に問いかける目的で昨年スタートした「関西・大阪文化力会議」。

本年は著しい成長を遂げる東アジアの中で、各国のダイナミズムを吸収しつつ、東アジアの安定と発展のために日本が選択すべき文化戦略と、関西が果たすべき役割を探った。基調講演にはハーバード大学名誉教授のエズラ・ヴォーゲル氏、韓国初代文化大臣の李御寧氏を招き、第1分科会「東アジアと共に進む日本の文化戦略を探る」、第2分科会「関西の文化力向上と戦略的発信」では積極的な議論が交わされ、会議の終盤には合意事項「中之島宣言」を採択、広くPRを行った。

- ◇主 催 (財)大阪21世紀協会
- 共 催 大阪国際フォーラム 協賛：(株)大阪国際会議場
- 後 援 (社)関西経済連合会、大阪商工会議所、
(社) 関西経済同友会
- ◇実施日 平成23年1月18日(火)
- ◇場 所 大阪国際会議場
- ◇発言者 基調講演 2名 分科会(2部門) 9名

評価

- ◆東アジアにおける日本、関西の役割という大きなテーマにかかわらず、1,200名が参加。文化に対する市民の関心の高さを示すものとなった。
- ◆大阪国際フォーラム、大阪国際会議場等と共催。特に、大阪国際会議場の尽力で基調講演にエズラ・ボーゲル氏を招聘。会議のインパクトを高めるとともに、当協会単独開催では得られない規模と内容の充実を図ることができた。
- ◆参加者アンケート結果より
 - ・基調講演、各分科会：非常によかった＋よかった 99%
 - ・コメント例：「よく工夫された運営で、大変楽しめた」
「想像を超えていい討議だった。次回に期待」
「大変面白いプログラム、一般人が参加しやすい
広報が必要」

(3) 人材育成

①大阪文化祭賞

大阪の芸術文化活動の奨励及び普及を図り、文化振興の機運を醸成することを目的に、大阪府、大阪市とともに5～6月、大阪府下で開催される公演を対象に「大阪文化祭」を開催。参加公演の中から、顕著な成果をあげた個人(または団体)に賞を贈呈。今年度より副賞として賞金を復活させた。

- ◇審査会 第1次・・・4月(書類選考) 第2次・・・7月
- ◇表彰式 平成22年8月30日(月) 「クラブ関西」
- ◇受賞 7件 (応募 52件)

評価 ◆府・市と民間というオール大阪の枠組みで実施する唯一の文化アワードであり、大阪の芸術活動振興の底上げに貢献できた。本年より賞金を復活させたことで参加意識の向上に寄与した。

◆授賞式会場の選定と、大賞受賞者（OSK日本歌劇団）のパフォーマンスなど演出の工夫により、授賞式が新聞記事に取り上げられ、効果的なPRができた。

②アートストリーム2010 IN サントリーミュージアム [天保山]

関西の若手アーティストに作品発表、ビジネスマッチングの場を提供し、「若手アーティストの登竜門」として認知されている「アートストリーム」。今回は、開催10周年を記念し、過去のアワード受賞者による「10人展」として開催。出展者との交流会も行い、アート収集家で吉本興業のタレントでもある「おかげんた」氏を招き、出展者とのトークショーを開催した。大阪芸術大学、サントリーミュージアム、大阪府、大阪市と実行委員会を組織し、当協会は事務局を担当した。

◇期間 平成22年9月7日（火）～20日（月）… 作品展示
9月17日（金） … 交流会

◇場所 サントリーミュージアム [天保山] 2Fホール…作品展示
9Fスカイラウンジ…交流会

評価 ◆参加者 観覧者／5,000名 交流会参加／100名

◆区切りとなる10周年のアートストリームの会場に、サントリーミュージアムの協力により、ミュージアム内メインホールが提供され、開催会場のグレードアップとともにイベントのクオリティーが向上。次年度以降の継続開催への道筋をつけた。

3. 関西・大阪のイメージ向上

(1) 関西空港等公共スペースにおける関西・大阪ブランドの映像発信

当協会ネットワークを活用し、経験豊かなカメラマンを登用、効率的に魅力的な映像ソフトを制作した。昨年に引き続き、JR西日本の提供による関西・大阪を紹介する映像（景観、季節の風物等）を制作し、関西国際空港等において放映。関西の多彩な魅力を広く内外にアピールした。

◇放映場所 関西国際空港 税関エリア
(荷物引取場所：50 インチスクリーン×16 面)

大阪国際空港 3F ラウンジ (9 月から)

◇制作 春夏秋冬版 計 4 本

◇二次利用 本年のダイジェスト版 (DVD、著作権フリー) を制作。各国領事館及び経済団体等に配布し、海外でのPR、活用を依頼した。

評価	◆関西国際空港に到着した外国人が初めて目にする関西の映像であり、刷り込み効果は大。さらに、22 年度は大阪国際空港に新たな放映場所を得て、関西・大阪の魅力を関西以外の人々へ発信することに貢献した。
-----------	--

(2) Web 放送局の運営・コンテンツ制作

関西、大阪のブランド資源を、学識経験者や専門家等の協力を得て調査研究し、その成果を協会ホームページで発信した。

《Web 放送局の運営》

ホームページにおいて、より多くの方々にアクセスして頂くよう、トップページのリニューアルと新たなコンテンツを加え、173 万件のアクセスを得た。

主な変更点は

- ・「大阪文化力 NEWS」で、関西を取り巻く最新の文化情報を提供
- ・協会主催イベントコンテンツの充実
- ・「大阪鍋騒動」、「夏祭り特集」等の新コンテンツを追加
- ・「水の街道」と題し、動画コンテンツを新設

《Webコンテンツの制作》

	年度テーマ	内 容	発 信
1	大阪の夏祭り 特集	大阪の伝統行事、夏祭りについて、上町台地の神社を中心にヒアリング調査を実施。都市の祭りの変遷を調べ、今後の市民と祭りの関わりを提案。	Webマガジンのコンテンツとして、ホームページに掲載
2	大阪の鍋	昨年度実施した「大阪の鍋」の調査・研究を進化させ、出汁、食材について新たな成果を発表。	

《映像コンテンツの制作》

- ◇テーマ 水の街道（淀川水系文化圏）
- ◇内 容 水都大阪をPRするために、関西各地の“水の文化”を多元的に収録し、5回に渡りeo光TV、CATVで放映。あわせて、協会ホームページでその動画を配信した。

評価	<ul style="list-style-type: none"> ◆トップページの更新と新たな動画コンテンツの追加もあり、大阪ブランド情報のアーカイブの役割を果たしている。 ◆大阪の食文化と鍋という切り口から編集し、幅広い情報を発信できた。 ◆「水の街道」では、当協会はeo光TV、KCATのコンテンツ制作費を一部負担し、放送とホームページの並行発信によるシナジー効果を発揮した。
-----------	---

(3) ブランド情報誌「OSAKA*文化力」の発行等

関西・大阪のブランド力向上を目的に、関西・大阪の文化やブランド資源、協会事業を広く発信するブランド情報誌として定期刊行。関西の文化に造詣の深い学識経験者やアーティストを取材し、関西再生、文化、まちづくり等に関する見解を広く発信した。

- ◇発行時期 年3回（7月、11月、3月）

3月号は「関西・大阪文化力会議2011」（1月18日開催）特集号

- ◇発行部数 12,000部/回

評価

- ◆ 鼎談や、有識者の文化・まちづくりに関する考えを深掘りしてインタビューを行い、関西・大阪の文化やブランド発信に貢献。
- ◆ No. 110 夏号で実施した読者アンケート結果では、鼎談、企業メセナ最前線、誌上舞台を中心に高い評価を得た。
 - ⇒ 「非常に良い」 + 「良い」の回答：78～89%
 - ⇒ 総じて、質の高い文化情報誌としての評価を得ている。

(4) 御堂筋等におけるバナー展開

「御堂筋オープンフェスタ」等、他団体が御堂筋において掲揚するバナーに使用する掲揚金具（当協会所有）の貸出しを行い、使用料収入を得た。

4. 水都大阪まち育て

(1) 「水都大阪」の継続・継承

① 「平成 OSAKA 天の川伝説 2010」への参画

「平成 OSAKA 天の川伝説」運営委員会と協働し、先端技術 LED を光源とする「いのり星」5万個を大川に流し、七夕という伝統行事に水上の『天の川』という新たな水都の景観を実現した。

◇実施日 平成 22 年 7 月 7 日 19:00～21:00

◇場 所 大川（八軒家浜界限）～

土佐堀川、堂島川（中之島東部周辺）

評価

- ◆ 民間の発想で「七夕」という伝統祭事を、LED という先端技術でプロデュースし、新たな都市河川の景観を実現した。
- ◆ 翌朝刊では全紙一面にカラー写真とともにこのイベントが掲載され、水都大阪のブランディングに大きく貢献できた。
- ◆ 来場者 27,000 名

+

②水辺を愉しむ体験企画への参画

大阪水上バス、中之島高速鉄道、大阪市スポーツ・みどり振興協会及び当協会で実行委員会を組織し、水都を愉しむ催しを実施した。

《Ⅰ 水の回廊特別クルーズ》

- ◇実施日 平成22年8月21日～10月11日の土日祝 18日間
- ◇内 容 大阪城港発着で、水の回廊一周コースを運航
18便（1便／日、30名定員）運航
※当協会制作のクルーズ案内ソフト『水都大阪再発見
クルーズ — 川から巡る大阪の建築今昔』を活用

《Ⅱ 中之島レール・ウォーク&クルーズ》

- ◇実施日 平成22年10月22日（土）、23日（日）
- ◇内 容 中之島の川べりマップを持ち、健康講座付のウォーキングツアーで、水都の景観、歴史、文化を実証見聞

評価	◆参加者Ⅰ 284名（16名／1日）
	Ⅱ 204名（22日：107名 23日：97名）
	◆アンケート結果から（水の回廊特別クルーズ）
	・参加者：大阪市内在住者が全参加者の54%
	・年齢層：20代⇒33% 30代⇒15% 50代⇒12% 60代⇒12%
	・中之島の魅力： 歴史的建造物／49% 水辺が近い／32%
	・クルーズの感想：期待通り＋期待以上／99%

（2）OSAKA 水上音楽パレード

「水都大阪2009」に引続き、NPO法人大阪水上安全協会とともに、大阪市内の川を航行する全種類の船舶によるパレードを実施。また、御堂筋パレードにかわる高校吹奏楽部の発表の場として船上舞台を提供。水都大阪の秋の風物詩として定着することを目指し、実施した。

- ◇実施日 平成22年10月3日（日） 13:00～15:00
※15:00以降雨天につき、道頓堀への航行、ジャズ演奏は中止
- ◇場 所 大川（八軒家浜界限）
- ◇参 加 ・高校吹奏楽部 2校
・パレード船舶 34隻
住之江競艇ボート 2隻（デモンストレーション）

評価	<ul style="list-style-type: none"> ◆雨天にもかかわらず、1,500名が来場 ◆競艇ボートなど新たな参加者も加わるなど、意図する水都大阪の秋の恒例行事として広がりを出した。 ◆道頓堀と八軒家浜を結ぶ高校吹奏楽部のパレード船は、本年よりミナミまち育てネットワークと連携し、地元ジャズバンドとの協演を計画。 <p>本年は生憎、雨で中止となったが、次年度に繋がる枠組みを構築できた。</p>
-----------	--

(3) 「大阪城サマーフェスティバル 2010」

大阪を代表する歴史資産「大阪城」及び上町台地周辺で夏季に集中的に開催される様々なイベント主催団体、経済団体、行政と実行委員会を組織し、連携と情報交換を図りながら、共同PR等を実施した。目的を、①大阪城のブランド力を高め、②大阪の芸術文化の情報発信力を強化し、③大阪の賑わい創出と観光集客を目指すことに定め、当協会はその事務局を担当した。

◇期 間 平成 22 年 7 月 7 日(水)～9 月 5 日(日)

評価	<ul style="list-style-type: none"> ◆参加イベント数 41 (昨年実績 37) ◆来場者数 71 万人 (昨年実績 47 万人) ◆5 回目の開催。一昨年のTV局主催の大型イベント中止以降、参加団体の増加で来場者数は大きく回復し、東京の広告代理店、名古屋観光コンベンションビューロー等、他都市からの問合せも増え、情報発信力のある事業に育ちつつある。
-----------	--

《西の丸庭園プロジェクト 2010》

「大阪城サマーフェスティバル」の主要なイベントの一つとして、ライトアップされた大阪城天守閣を背景にした西の丸庭園特設ステージを、複数のイベント主催者が共用することで、効率的に運用する社会実験。当協会は運営委員会の事務局を担当し、本年は下記のプログラムを実施した。

◇期 間 平成 22 年 8 月 20 日（金）～8 月 23 日（月）

◇プログラム

「大阪城 城灯りの景」・・・大阪市、大阪商工会議所等（主催）

「祈りのゴスペル」・・・大阪 2 1 世紀協会（主催）

「お笑い夏の陣」・・・NHK大阪放送局（主催）公開録画

評価

◆来場者数 59,062 名（昨年実績 38,590 名）

◆ゴスペル（天に向かって唄う歌）コンサートにあたり、ホームページ上で呼びかけた祈りのメッセージに、全国、海外から約 400 件もの書込みが集まった。内容的には「会場の素晴らしさ」、「平和の尊さ」、「歌から伝わる希望や元気」などに関するものが多く、このようなメッセージを大阪城を舞台に発信できた意義は大きい。

5. 後援事業

文化を軸にした他団体主催事業からの後援申請に対し、当協会も後援するに相応しいと判断した事業に後援名義を提供している。

◇22 年度「後援」実績 189 件（内、賞状提供：33 件、表彰盾提供：13 件）

平成 2 2 年度収支決算

1. 収支計算書	P 17
2. 収支計算書に対する注記	P 19
3. 貸借対照表	P 20
4. 正味財産増減計算書	P 22
5. 財産目録	P 25
6. 財務諸表に対する注記	P 28

収支計算書

(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
(1) 基本財産運用収入				
基本財産利息収入	7,300,000	7,232,919	67,081	
(2) 特定資産運用収入				
特定資産利息収入	500,000	924,964	△ 424,964	
(3) 会費収入				
法人賛助会員会費収入	64,500,000	66,867,690	△ 2,367,690	
個人賛助会員会費収入	1,500,000	1,250,000	250,000	
(4) 事業収入				
企画調整事業収入	0	0	0	
ブランド・コホ・文化力向上事業収入	4,580,000	5,910,915	△ 1,330,915	
(5) 協賛金収入				
協賛金収入	2,000,000	900,000	1,100,000	
(6) 雑収入				
雑収入	512,000	719,507	△ 207,507	
事業活動収入計	80,892,000	83,805,995	△ 2,913,995	
2. 事業活動支出				
(1) 事業費支出				
企画調整事業費支出	3,039,000	2,720,901	318,099	
ブランド・コホ・文化力向上事業支出	63,217,000	60,817,762	2,399,238	
事業費支出計	66,256,000	63,538,663	2,717,337	
(2) 管理費支出				
役員報酬	6,458,040	5,924,570	533,470	
給与手当	3,212,400	4,201,460	△ 989,060	
退職金	0	0	0	
福利厚生費	1,114,140	741,372	372,768	
賞与引当金繰入	0	0	0	
会議費	240,000	179,668	60,332	
旅費交通費	400,440	119,680	280,760	
通信運搬費	438,938	243,276	195,662	
消耗什器備品費	0	13,926	△ 13,926	
消耗品費	313,463	90,312	223,151	
修繕費	168,150	21,000	147,150	
印刷製本費	231,656	249,666	△ 18,010	
光熱水費	369,216	227,107	142,109	
賃借料	2,718,616	2,342,766	375,850	
諸謝金	0	11,111	△ 11,111	
租税公課	228,800	82,800	146,000	
委託費	4,652,339	2,900,331	1,752,008	
雑費	916,040	1,748,222	△ 832,182	
管理費支出計	21,462,238	19,097,267	2,364,971	
事業活動支出計	87,718,238	82,635,930	5,082,308	
事業活動収支差額	△ 6,826,238	1,170,065	△ 7,996,303	

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
(1) 特定資産取崩収入				
財務安定積立資産取崩収入	170,000,000	170,000,000	0	
投資活動収入計	170,000,000	170,000,000	0	
2. 投資活動支出				
(1) 特定資産取得支出				
文化振興事業積立資産取得支出	80,000,000	80,000,000	0	
企画調整事業積立資産取得支出	35,000,000	35,000,000	0	
設立30周年記念事業積立資産取得支出	26,900,000	26,900,000	0	
財務安定積立資産取得支出	55,000,000	55,000,000	0	
投資活動支出計	196,900,000	196,900,000	0	
投資活動収支差額	△ 26,900,000	△ 26,900,000	0	
III 財務活動収支の部				
(1) 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
(2) 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出	0	0	0	
当期収支差額	△ 33,726,238	△ 25,729,935	△ 7,996,303	
前期繰越収支差額	75,983,176	75,983,176	0	
次期繰越収支差額	42,256,938	50,253,241	△ 7,996,303	

収支計算書に対する注記

1. 収支計算書は、「公益法人会計における内部管理事項について」（平成17年3月23日公益法人等の指導監督等に関する関係省庁連絡会議幹事会申合せ）に示された3区分の様式により作成している。
2. 資金の範囲
資金の範囲には、現金預金、未収金、未収利息、前払金、未払金、預り金、賞与引当金及び未払消費税等を含めている。なお、前期末及び当期末残高は下記3.に記載するとおりである。
3. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳（単位：円）

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	76,400,627	48,631,525
未 収 金	1,125,660	997,354
未 収 利 息	1,518,009	1,700,100
前 払 金	567,359	568,112
合 計	79,611,655	51,897,091
未 払 金	1,499,338	1,357,364
預 り 金	1,343,071	286,486
賞与引当金	515,970	0
未払消費税等	270,100	0
合 計	3,628,479	1,643,850
次期繰越収支差額	75,983,176	50,253,241

貸借対照表

(平成23年 3月31日現在)

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	48,631,525	76,400,627	△ 27,769,102
貯蔵品	484,000	1,201,200	△ 717,200
未収金	997,354	1,125,660	△ 128,306
未収利息	1,700,100	1,518,009	182,091
前払金	568,112	567,359	753
流動資産合計	52,381,091	80,812,855	△ 28,431,764
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	279,857	279,857	0
投資有価証券	500,904,727	500,608,581	296,146
基本財産合計	501,184,584	500,888,438	296,146
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	13,500,000	13,500,000	0
御堂筋大阪のにぎわいづくり積立資産	18,526,381	18,526,381	0
財務安定積立資産	0	115,000,000	△ 115,000,000
文化振興事業積立資産	80,010,379	0	80,010,379
企画調整事業積立資産	35,000,000	0	35,000,000
設立30周年記念事業積立資産	26,900,000	0	26,900,000
特定資産合計	173,936,760	147,026,381	26,910,379
(3) その他固定資産			
什器備品	1,268,761	2,287,052	△ 1,018,291
電話加入権	3	3	0
その他固定資産合計	1,268,764	2,287,055	△ 1,018,291
固定資産合計	676,390,108	650,201,874	26,188,234
資産合計	728,771,199	731,014,729	△ 2,243,530

科 目	当年度	前年度	増 減
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,357,364	1,499,338	△ 141,974
預り金	286,486	1,343,071	△ 1,056,585
賞与引当金	0	515,970	△ 515,970
未払消費税等	0	270,100	△ 270,100
流動負債合計	1,643,850	3,628,479	△ 1,984,629
2. 固定負債			
退職給付引当金	13,500,000	13,500,000	0
固定負債合計	13,500,000	13,500,000	0
負債合計	15,143,850	17,128,479	△ 1,984,629
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
出捐金	501,184,584	500,888,438	296,146
寄付金	18,526,381	18,526,381	0
指定正味財産合計	519,710,965	519,414,819	296,146
(うち、基本財産への充当額)	(501,184,584)	(500,888,438)	(296,146)
(うち、特定資産への充当額)	(18,526,381)	(18,526,381)	(0)
2. 一般正味財産			
一般正味財産	193,916,384	194,471,431	△ 555,047
(うち、基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち、特定資産への充当額)	(141,910,379)	(115,000,000)	(△26,910,379)
正味財産合計	713,627,349	713,886,250	△ 258,901
負債及び正味財産合計	728,771,199	731,014,729	△ 2,243,530

正味財産増減計算書

(平成22年 4月 1日～平成23年 3月31日)

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①基本財産運用益			
基本財産受取利息	7,232,919	7,232,919	0
②特定資産運用益			
特定資産受取利息	935,343	1,324,767	△ 389,424
③受取会費			
法人賛助会員受取会費	66,867,690	74,818,425	△ 7,950,735
個人賛助会員受取会費	1,250,000	1,720,000	△ 470,000
④事業収益			
企画調整事業収益	0	864,000	△ 864,000
ブランド・コネクト・文化力向上事業収益	5,910,915	(※1) 10,197,435	△ 4,286,520
⑤受取協賛金			
受取協賛金	900,000	7,730,750	△ 6,830,750
⑥雑収益	719,507	6,927,656	△ 6,208,149
経常収益計	83,816,374	110,815,952	△ 26,999,578

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
(2) 経常費用			
①事業費			
企画調整事業費	2,720,901	14,725,818	△ 12,004,917
ブランド・コネクト・文化力向上事業費	61,517,362	(※1) 145,639,188	△ 84,121,826
事業費計	64,238,263	160,365,006	△ 96,126,743
②管理費			
役員報酬	5,924,570	5,942,285	△ 17,715
給与手当	4,201,460	9,982,633	△ 5,781,173
福利厚生費	741,372	2,333,165	△ 1,591,793
退職金	0	8,303,910	△ 8,303,910
賞与引当金繰入額	0	515,970	△ 515,970
会議費	179,668	221,324	△ 41,656
旅費交通費	119,680	196,570	△ 76,890
通信運搬費	243,276	270,116	△ 26,840
消耗什器備品費	13,926	341,040	△ 327,114
消耗品費	90,312	655,795	△ 565,483
修繕費	21,000	4,305	16,695
印刷製本費	249,666	299,077	△ 49,411
光熱水費	227,107	312,074	△ 84,967
賃借料	2,342,766	6,610,309	△ 4,267,543
諸謝金	11,111	60,000	△ 48,889
租税公課	82,800	376,800	△ 294,000
委託費	2,900,331	3,808,940	△ 908,609
減価償却費	893,026	1,046,674	△ 153,648
雑費	1,765,822	3,128,837	△ 1,363,015
管理費計	20,007,893	44,409,824	△ 24,401,931
経常費用計	84,246,156	204,774,830	△ 120,528,674
当期経常増減額	△ 429,782	△ 93,958,878	93,529,096

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
①固定資産除却損			
什器備品除却損	125,265	6,825	118,440
経常外費用計	125,265	6,825	118,440
当期経常外増減額	△ 125,265	△ 6,825	△ 118,440
当期一般正味財産増減額	△ 555,047	△ 93,965,703	93,410,656
一般正味財産期首残高	194,471,431	288,437,134	△ 93,965,703
一般正味財産期末残高	193,916,384	194,471,431	△ 555,047
II 指定正味財産増減の部			
①基本財産運用益			
基本財産受取利息	7,529,065	7,529,065	0
②一般正味財産への振替額			
一般正味財産への振替額	7,232,919	7,232,919	0
当期指定正味財産増減額	296,146	296,146	0
指定正味財産期首残高	519,414,819	519,118,673	296,146
指定正味財産期末残高	519,710,965	519,414,819	296,146
III 正味財産期末残高	713,627,349	713,886,250	△ 258,901

(※1) 事業の統合により、前年度まで中科目として別掲していた大阪ブランド事業収益2,521,460円及びコラボレーション事業収益7,675,975円をブランド・コラボ・文化力向上事業収益に、また大阪ブランド推進事業費64,522,520円及びコラボレーション促進事業費81,116,668円をブランド・コラボ・文化力向上事業費に含めている。

財産目録

(平成23年3月31日現在)

(単位：円)

科	目	金	額
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
現金			
		75,699	
普通預金			
	みずほ銀行 大阪支店	19,033,992	
	三菱東京UFJ銀行 大阪公務部	2,836,955	
	三井住友銀行 大阪公務部	3,479,793	
	りそな銀行 大阪公務部	2,249,694	
	近畿大阪銀行 本店営業部	3,570,527	
	池田泉州銀行 大阪支店	1,349,279	
	池田泉州銀行 池田営業部	1,035,586	
定期預金			
	三井住友銀行 大阪公務部	15,000,000	
		48,631,525	
	貯蔵品（書籍）	484,000	
	未収金（関空映像等協賛収入等）	997,354	
	未収利息（有価証券利息）	1,700,100	
	前払金（事務所賃借料等）	568,112	
	流動資産合計		52,381,091
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金			
	三井住友銀行 大阪公務部	279,857	
投資有価証券			
	国債 第268回利付国債	3,099,846	
	第269回利付国債	40,141,617	
	大阪府債 第253回大阪府公募公債	79,965,428	
	大阪市債 平成14年度第11回公募公債	79,965,716	
	平成18年度第11回公募公債	297,732,120	
	基本財産合計	501,184,584	

科	目	金	額
(2) 特定資産			
	退職給付引当資産		
	定期預金		
	三井住友銀行 大阪公務部	3,500,000	
	りそな銀行 大阪公務部	10,000,000	
		13,500,000	
	御堂筋大阪のにぎわいづくり積立資産		
	定期預金		
	りそな銀行 大阪公務部	18,526,381	
		18,526,381	
	文化振興事業積立資産		
	普通預金		
	りそな銀行 大阪公務部	187,550	
	有価証券		
	大阪市債 平成19年第2回みおつくし債	25,000,000	
	国債 第93回利付国債	54,822,829	
		80,010,379	
	企画調整事業積立資産		
	定期預金		
	りそな銀行 大阪公務部	35,000,000	
		35,000,000	
	設立30周年記念事業積立資産		
	定期預金		
	りそな銀行 大阪公務部	6,900,000	
	三菱東京UFJ銀行 大阪公務部	10,000,000	
	池田泉州銀行 大阪支店	5,000,000	
	池田泉州銀行 池田営業部	5,000,000	
		26,900,000	
	特定資産合計	173,936,760	

科 目	金	額
(3) その他固定資産		
什器備品（絵画・彫刻等）	15	
什器備品（サーバー等）	1,268,746	
電話加入権	3	
その他固定資産合計	1,268,764	
固定資産合計		676,390,108
資産合計		728,771,199
II 負債の部		
1. 流動負債		
未払金		
印刷製本費等 管理費及び事業費	1,357,364	
	1,357,364	
預り金		
所得税	120,986	
住民税	45,500	
その他	120,000	
	286,486	
流動負債合計		1,643,850
2. 固定負債		
退職給付引当金	13,500,000	
（うち役員分）	(13,500,000)	
固定負債合計		13,500,000
負債合計		15,143,850
正味財産		713,627,349

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 公益法人会計基準（平成16年10月14日公益法人等の指導監督等に関する関係省庁連絡会議申合せ）を採用している。
- (2) 有価証券の評価基準及び評価方法について
満期保有目的の債券・・・償却原価法（定額法）によっている。
- (3) 固定資産の減価償却の方法について
什器備品・・・定額法に基づいて計上している。
- (4) 引当金の計上基準について
退職給付引当金・・・役員・職員に対する期末自己都合要支給額の100%を計上している。
- (5) 消費税等の会計処理について
税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及び残高

基本財産及び特定資産の増減額及び残高は、次のとおりである。（単位：円）

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	279,857	0	0	279,857
投資有価証券	500,608,581	296,146	0	500,904,727
小計	500,888,438	296,146	0	501,184,584
特定資産				
退職給付引当資産	13,500,000	0	0	13,500,000
御堂筋大阪のにぎわいづくり積立資産	18,526,381	0	0	18,526,381
財務安定積立資産	115,000,000	0	115,000,000	0
文化振興事業積立資産	0	80,010,379	0	80,010,379
企画調整事業積立資産	0	35,000,000	0	35,000,000
設立30周年記念事業積立資産	0	26,900,000	0	26,900,000
小計	147,026,381	141,910,379	115,000,000	173,936,760
合 計	647,914,819	142,206,525	115,000,000	675,121,344

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。（単位：円）

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に対応 する額)
基本財産				
定期預金	279,857	(279,857)	(0)	—
投資有価証券	500,904,727	(500,904,727)	(0)	—
小計	501,184,584	(501,184,584)	(0)	—
特定資産				
退職給付引当資産	13,500,000	(0)	(0)	(13,500,000)
御堂筋大阪のにぎわいづくり積立資産	18,526,381	(18,526,381)	(0)	(0)
文化振興事業積立資産	80,010,379	(0)	(80,010,379)	(0)
企画調整事業積立資産	35,000,000	(0)	(35,000,000)	(0)
設立30周年記念事業積立資産	26,900,000	(0)	(26,900,000)	(0)
小 計	173,936,760	(18,526,381)	(141,910,379)	(13,500,000)
合 計	675,121,344	(519,710,965)	(141,910,379)	(13,500,000)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品（絵画・彫刻等）	15	0	15
什器備品（サーバー等）	6,788,486	5,519,740	1,268,746
電話加入権	3	0	3
合 計	6,788,504	5,519,740	1,268,764

5. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	帳簿価額	時価	評価損益
国債			
第268回利付国債	3,099,846	3,234,062	134,216
第269回利付国債	40,141,617	41,728,796	1,587,179
第93回利付国債	54,822,829	55,076,010	253,181
大阪府債			
第253回大阪府公募公債	79,965,428	80,580,560	615,132
大阪市債			
平成14年度第11回公募公債	79,965,716	80,549,920	584,204
平成18年度第11回公募公債	297,732,120	315,281,772	17,549,652
平成19年第2回みおつくし債	25,000,000	25,320,000	320,000
合 計	580,727,556	601,771,120	21,043,564

6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
基本財産受取利息	7,232,919
合 計	7,232,919